

そだちあい

No.32

発行／社会福祉法人 ひらきの里

〒753-0302 山口市仁保中郷10043番地
☎(083)929-0312 FAX(083)929-0357
http://hirakinosato.com/
e-mail: hiraki@c-able.ne.jp

「ひらきの里創設30周年に当たって」 社会福祉法人ひらきの里 理事長 平尾 要

令和3年2月22日天皇陛下から御下賜金を賜りました。これは「ひらきの里」が社会福祉事業を通じ地域貢献したとして下賜されたものであり誠に光栄の至りあり、深く感謝する次第であります。

この榮譽は一昨年急逝された川谷孝夫元理事長の指導力と、職員一同の献身によるものであり深く肝に銘じる次第であります。

さらには創設から今日まで「ひらきの里」を支えていただいた地域の皆様、行政機関、保護者の皆様のご助力に深く感謝申し上げます。

今年は法人創設30年にあたります。振り返れば苦節8年の準備段階を経て、平成3年4月「ひらきの里」が開所しました。それから30年思えばここまでよく来た后感心します。

昭和の時代、自閉症親の会が全国各県に創設され、障害を持つ子供たちの医療、教育、福祉についてあるべき姿を訴えることが始まりました。

先進県では成人した自閉症者のための施設創設の運動がおこり、山口県でも「親の会」が準備会を立ち上げ今日の「ひらきの里」につながりました。

「ひらきの里」は自閉の子を持つ親の執念で開設し、親が子への愛情でここまで運営してきました。

今後は創設時の理念「そだちあい」を固く引き継ぎ、役員、職員一同初心に戻って精進してまいります。皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

「30周年に寄せて」 社会福祉法人 ひらきの里 施設長 松本 正

平成3年3月に開所したひらきの里は今年で30歳を迎えました。

当時、定員30人、30のご家族が力を合わせて精神薄弱者入所更生施設ひらきの里の運営を開始しました。設立の発起は昭和58年からであったと伺っています。

入所施設からスタートした施設は、社会福祉に関連する様々な法改正に伴い、グループホームの設立、山口県から発達障害者支援センター、山口市からは相談支援事業の委託を頂き、平成21年には、通所事業所ひらきの家を開設しました。この通所事業所には、児童のデイサービスを新たに開設し、子どもから大人までサービスを提供できる環境を整えました。

法人の名前である“ひらき”は自閉の閉じるの反対のことは“ひらく”から命名され、機関紙、“そだちあい”は親も子も、そして職員もお互いがお互いの成長を願う。ひらきの里には、設立した際のご家族の願い、当時の職員の思いがたくさん込められています。

この30年を振り返って、私たち職員は、ご家族の願う思いに少しずつでも近づいた施設、当時目指した“希望”に近づくことができているでしょうか。

故川谷理事長が、“ひらきの里は永遠である”このことは職員を前にした挨拶でよくいわれていました。理事長として、ご家族の一人として強い願いが込められていると今も思い出されます。

現在のひらきの里は、これまでの積み重ねの上にあります。今、その先は、現在の家族、職員、利用者が創っています。取り組みや方向性によっては、未来が大きく変わります。

ひらきの里に期待されている様々な使命とともに、職員、利用者とともにこれからの更なる10年20年を目指し、“希望”に向かってひらきの里は歩み続けていきます。

ひらきの里 設立30周年に寄せて

「ご苦労さま!!」

ひらきの里 初代施設長 三隅 達雄

関係者の皆様、おめでとうございます。

バトンをつないだ1人として、大変嬉しく思います。

「自閉症研究会」に参加していたこともあって、「ひらきの里」よりお誘いを受けました。

開設当初のメンバーは門外漢で右往左往の連続でした。

とにかく、入所者の「健康と安全」を最優先することにしました。苑生の皆様も、環境の変化に戸惑われた方も多くて大変でした。とりあえず、「清潔・摂食・運動」に重点をおきました。場所的に、散歩に適した地域でしたので、大変助かりました。

また、南側の空き地が殺風景だったので、大量のコスモスの種子を蒔きました。こうした事が地域との交流行事としての「コスモス祭」につながっています。

経済的には、実績がないために、補助費が支給されず、大変だったことを思い出します。

公用車では、共同募金の援助を受けました。車庫が必要だったり、エアコンは贅沢品でダメだということには驚きました。事務職の専門家を雇えず、国庫補助の申請にも手間どりました。

「時がすべてを解決する」という言葉がありますが、まさにその通りだと思いました。

今後の貴法人の益々の発展をお祈りいたします。



ひらきの里保護者会 会長 杉山 和紀

社会福祉法人 ひらきの里 設立30周年のお祝い申し上げます。

この祝意を述べるに当たり、ひらきの里開設前後の経過等についてよく知って居ませんでした。

と言いますのは、ひらきの里入所施設の存在を始めて知ったのは、ひらきの里Ⅱ期入所募集中で長女の睦に、入所誘いの問合せがあった時と思います。その縁で、3年次の高等部を卒業せずに入所し、現在に至っています。

最近のNHKBSでガイトウインタビューの番組があり、インタビュー者が歩行者に「人生の最大ピンチは…」と出問し、その人が如何にピンチを乗り越えた状況告白の構成になっていました。

我が家にとっても、ピンチは大小多々ありました。最大のピンチは12年前に居眠り運転の対向車と、家内が運転する長女、次男同乗の自家用車が正面衝突事故に遭い、家内が重傷で山口日赤病院での入院療養、リハビリが3ヶ月に及んだ事でした。当時、次男は県山口養護支援学校の5年生でしたが、対応策に悩んでいる時にひらきの里が短期入所支援をして頂き、学校へ登下校は何とタクシー通学でした。その時のご縁で、次男が養護支援学校高等部を卒業時に、ひらきの里の入所に繋がった様に思っております。

ガイトウインタビューの最後の言葉と繋がりますが、ピンチはチャンスでもあるという事です。

昨年初頭から新型コロナ禍の蔓延の繰り返しのニュースで、社会不安状況が続いていますが、ピンチはチャンスの信念で明るい未来に向かって、共に前進して行きましょう。



ひらきの里後援会 会長 河村 敏代

「ひらきの里」開設30周年おめでとうございます。

また、後援会の会員の皆様に長く支えられてきましたこと、厚くお礼申し上げます。

思い返せば、開所のずっと前から資金集めと活動を知っていただく為、お祭りのバザーに参加いたしました。お好み焼きを焼いてきました。

手づくり品を作り、贈答品を集めたり、洗剤、お茶、すりゴマなどを売りました。あの頃は親も若く、一生懸命でした。なつかしく思い出します。

21歳で入所した息子も51歳になりました。家での生活の時より、「ひらきの里」の生活の時の方が長くなりました。とても感慨深いです。

コロナで子供達は楽しみがすごく減りました。早く元のような生活に戻り、今までのように指導員さん、職員さん達の暖かいご支援で前進していけるように願っています。

「身内を入れてもいいと思える施設」これが私の理想です。

今後共、会員の皆様のご支援を賜りますようお願いいたします。

おわりになりましたが、「ひらきの里」の益々のご発展と関係の皆様のご健勝をお祈り申し上げまして、お礼の言葉といたします。



「そだちあいそだちあう」

ひらきの里 元職員

現 社会福祉法人 内日福祉会 びれっじ 相談支援専門員 沖村 文子

「自分たちが育てられているよね！」そんな会話からひらきの里機関紙の「そだちあい」は生まれました。

開所当時、自閉症の理解はまだまだ、施設生活に至っては「指導とは？支援でしょ！」そんな会話の世の中でした。

理解のためには、まず知ることから…毎日の日課は午前も午後も散歩だったように記憶しています。

挨拶をかわしながら、知る⇒理解のために何ができるかを模索しました。当時の施設長が、「この広い土地がコスモスでいっぱいになったら地域の人とお祭りをしよう」と袋いっぱいの種を用意されました。そして始まったのがコスモス祭りです。

日常生活や行事を通して、見通しがあることが安定するということを体で覚えていったと思います。散歩を意味ある散歩にするにはごみ袋と火ばさみ、軍手。折り返し地点で館。それがあかないかで、本当に違った…穏やかな季節を感じる散歩。今ならもっと見通せる方法を思いつくのに…と当時の知識の無さに申し訳なさでいっぱいです。

自閉症の理解も随分広がりました。たくさんの方の自閉症支援のノウハウもあります。長い時間を過ごしてきた施設で変わることはとても大変だと思います。しかし、それでも一人ひとりが豊かな生活、生涯穏やかに暮らす時間となるようにできることは必ずあると思います。どうぞ、これからの暮らし、「自分らしく生きる」の実現のために今また育ちあってと願います。

私もまた原点忘れることなく育ちあっていきます。30年前の出会いに心から感謝しています。ありがとうございます。



「ひらきの里との出会いに感謝」

元職員 栄養士 中島 美由紀

ひらきの里開所当時は新米栄養士だった私も3人息子の母となり、気づけば平成から令和へと時は流れました。

当時、利用者さんの平均年齢は21歳と若くエネルギーたっぷりのうえ、慣れない集団生活の始まりでしたから本当に落ち着かない日々でした。

親元を離れ不安な利用者さんに、手作りの家庭的な食事を食べてもらいたい！と、いつも頭の中は献立のことばかりでした。保護者の方から幼少期や帰省中の話を聞いて食事を工夫しましたが、「食べたい時に食べたい物が食べられる」これ以上のご馳走はないなあ・・・と集団給食では対応が、難しいことも多く落ち込むこともありました。

私が在職した16年間には、食事に影響する大きなニュースが色々ありました。台風19号上陸時にはしばらく停電し、当時は井戸水でしたのでご近所の庭先の水道を借りて洗い物をしたこともありました。冷夏により米が不作となり、タイ米でピラフを作ったことも。各地で病原性大腸菌O-157・ノロウィルスが発生し衛生管理がかなり厳しくなりました。さらに狂牛病・鳥インフルエンザの流行も。そんな中大きな事故もなく安全に食事が提供できたことは、みなさんのご協力のおかげだと感謝しています。

色々な思い出の中でも、利用者さんと一緒に過ごせる行事がとても楽しみでした。仁保白石山や鳳べん山への登山、電車での花見、青海島キャンプ、木与ヶ浜海水浴、河川プールでの水遊び、もみの木森林公園での雪遊び、ハプニングもありましたが楽しい思い出です。

利用者さんとたくさんふれあい、保護者の方とも親しくさせていただき子供さんへの思いを知ることができました。本当にあったという間の16年間でした。

ひらきの里のみなさんとの出会いに感謝し、利用者さんがこれからも元気におだやかな気持ちで過ごせることを願っています。本当にありがとうございました。



「七年間を過ごした心の里によせて」

元職員 そよかぜ棟主任 小林 恵美子

ひらきの里開設三十周年おめでとうございます。三十年もの間の職員、保護者の皆さまの熱意とご努力で、発達障害の方々にとってなくてはならない施設として発展されていますこと、心より喜び申し上げます。

私は結婚するまでの七年間のわずかな時間ですが、開設当初より働かせていただき、女子棟「そよかぜ」の主任として若い職員達と奮闘の日々でした。開設当初は可愛らしい少年、少女であった利用者の皆さんも色々な経験を通して大人とられましたね。

ひらきの里での思い出は、すさまじく、そして多くありすぎてとても書ききれません。

音楽好きな人も多く、印象的だったピアノを弾くMさん。ハンドベルチームをしていたので、彼女は大活躍でした。時々不穏となり、演奏できるのかな？と思うこともしばしば。しかし、彼女はいつもちゃんと弾いてくれましたね。家から遠く離れ、集団生活をする利用者にとって職員はとても身近な存在であり、たまには抑えようもない感情を出してしまうことも多く、それが延々と続く時、私も悩み、夢にも出てきたこともありました。

現在は、そんな経験から心と身体の繋がりに関心を持ち、整体、整体スクールや、スクールソーシャルワーカーもしています。ひらきの里での常識では通用しない強烈な思い出の多い時間は、私の今の原動力でもあり、今もなお心の里として生きています。

障害者を取り巻く法律や制度、理念も変化する中で、なお悩む保護者や行き辛さを感じる方はたくさんおられます。学校現場においてもです。第一線で関わりを持つ職員の方の皆さん、保護者の皆さんは、これからも誇りを持たれて支援をされていくことと思います。困ったときにはご助言をよろしく願っています。

今後ともどうぞよろしく願っています。



写真で振り返る30年の歩み 行事余暇



成人式 はじめての祝賀式



成人式（高野公民館） 新成人からの一言!!



日帰り旅行 食後のひととき



白石山登山 みんなで登頂成功



24時間テレビ ハンドベル演奏出演



ひらきの里 運動会 次は、かけっこ?!



コスモス祭 恒例のもちまき



ひらきの里 クリスマス会 サンタさんからプレゼント



コスモス祭 素敵な笑顔



クリスマス会(オーロラの家) クリスマスソング熱唱♪

写真で振り返る30年の歩み 行事余暇



グラウンドでバーベキュー もう焼けたかな?!



山口きらら博 公式キャラクター「山口きららバンド」と一緒に (平成13年)



20周年記念一泊旅行 京都金閣寺 新幹線で、京都・大阪・滋賀へ (平成23年)



山口市育成会 いきいき交流会 足をそろえてムカデ競争



2011山口国体開会式オープニングイベント参加



一泊旅行嬉野温泉 お肌つるつる



山口県アイリンピック大会 玉入れ何個入るかな?



海水浴 菊が浜



そうめん流し(新棟中庭にて) 納涼の1コマ

写真で振り返る30年の歩み 日常風景



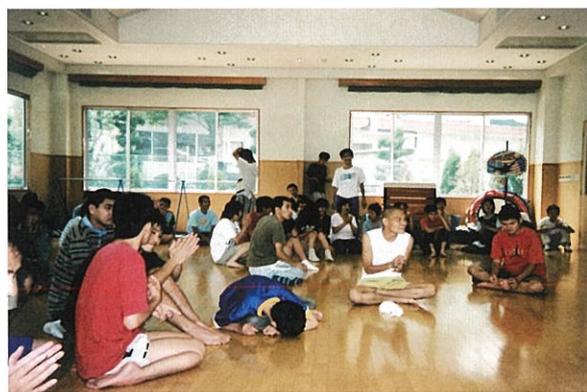
散歩風景 気分爽快 森林浴



芸術文化祭（県庁） ちよると一緒に



食事風景 今日のランチは何か？



地域交流ホーム 皆で拍手!!



サツマイモ掘り 収穫の秋



創作活動（陶芸） 大作の予感?!



仁保川散歩 こいのぼりいっぱい



散歩途中の一枚（ひらきの家 建設中）



ひらきの里 コスモス花壇の前で

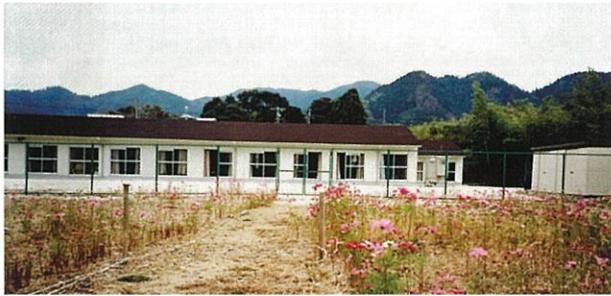
写真で振り返る30年の歩み 建設など



ひらきの里 竣工（平成3年旧食堂にて）



開所当時 みんなで植樹（平成4年）



コスモスいっぱい咲きました（平成4年）



法人10周年記念式典（平成12年地域交流ホームにて）



コスモスホーム竣工（平成12年）（自立訓練棟）



子ども通所サービスあぼろ 竣工（平成21年）



ひらき農園 作業棟 竣工（平成21年）



多機能型事業所 ひらきの家 竣工（平成27年）

ひらきの里 スタッフ紹介

そよかぜ

倉永 季巳江
上田 真由美 青木 春菜
山下 絵美 津森 聡美
末廣 優
野村 親鈴

オアシス

阿部 康彦(サビ管)
千々松 佑也 原田 幸浩
立野 儀朗 井上 卓司
藤本 烈 沖村亮太郎

のぞみ

三浦 美緒
松原 章容 内山 寛之
角田 玖莉子
中野 達也
梶野 彩夏
原 拓海

健康

竹下 信恵
義居 里江

発達障害者支援センター

岡村 隆弘
(センター長)
吉富 徹
金谷 陽子

まきば

伊藤 晋一
池田 正和
安達 稔
八道 忠政
堀田 拓児
矢富 友庸
徳田 三幸

相談支援事業 ぴぽっと

貞光 敬子 南波 航希

グループホーム ひらき

若月 伸也(サビ管)
I 松村 一孝 吉富 英明
吾郷 吉教 小林 良治
宮本 節夫 稲子田 光男

事務所★支援課

松本 正(施設長)
大本 二三幸(課長・サビ管)
木村 彰孝(サビ管)
村上 華純 石田 圭美
吉田 早紀 藤野 彩香

食事

馬場 桃子
与国 二美子
与国 祥子
赤地 礼子
田村 百合子
大庭 喜代美

II 藤田 武紀 杉本 和也
信岡 克典 松田 俊朗
田村 育巳 中野 大輔
中川 小枝子

多機能型事業所 ひらきの家

平尾 要(所長)
八木 理江(課長・サビ管)

III 上村 優貴 西岡 卓矢
本廣 聖児 窪 祐樹
森岡 一成

★生活介護★

岩田 幸子 齋藤 康徳
小林 健吾 波多野 和夫
波多野 純子

子ども通所サービスあぼろ

白井 優子
(児童発達支援管理責任者)
平尾 裕美子
正司 素子
堀 美奈子
坂井 萌絵
野本 寧子
宮崎 いずみ

多機能厨房&グループホーム

世話人

山縣 保枝 山本 秀子
大阪 秀行 丸山 美代子
古屋 小百合 松田 和美

★就労継続B★

河野 達夫 栗林 香代子
山川 紀美子

退職者

谷本 麻穂 平田 由美子
河口 裕子 山本 静枝
後藤 雅行
お世話になりました。

法人単位貸借対照表

令和3年3月31日現在

(単位:円)

資産の部			
	当年度末	前年度末	増減
流動資産	335,952,243	265,989,290	69,962,953
現金預金	242,402,960	170,593,669	71,809,291
事業未収金	93,330,907	95,104,453	△ 1,773,546
立替金	0	0	0
前払金	218,376	291,168	△ 72,792
固定資産	788,493,168	820,020,516	△ 31,527,348
基本財産	659,324,996	687,568,582	△ 28,243,586
土地	165,298,153	165,298,153	0
建物	954,066,659	954,066,659	0
建物減価償却累計額	△ 461,039,816	△ 432,796,230	△ 28,243,586
定期預金	1,000,000	1,000,000	0
その他の固定資産	129,168,172	132,451,934	△ 3,283,762
建物	155,696,401	154,796,401	900,000
建物減価償却累計額	△ 110,347,557	△ 105,282,186	△ 5,065,371
構築物	46,424,372	46,424,372	0
構築物減価償却累計額	△ 34,062,165	△ 32,122,679	△ 1,939,486
機械及び装置	71,321,996	71,321,996	0
機械及び装置減価償却累計額	△ 68,440,638	△ 67,810,088	△ 630,550
車輛運搬具	11,048,428	11,048,428	0
車輛運搬具減価償却累計額	△ 10,124,559	△ 9,663,321	△ 461,238
器具及び備品	53,141,677	47,925,367	5,216,310
器具及び備品減価償却累計額	△ 43,307,130	△ 39,039,813	△ 4,267,317
建設仮勘定	1,980,000	0	1,980,000
ソフトウェア	2,837,376	3,797,280	△ 959,904
退職給付引当資産	52,989,971	51,046,177	1,943,794
出資金	10,000	10,000	0
資産の部合計	1,124,445,411	1,086,009,806	38,435,605

負債の部			
	当年度末	前年度末	増減
流動負債	32,442,964	28,200,004	4,242,960
事業未払金	12,283,834	7,683,625	4,600,209
1年以内返済予定長期運営資金借入金	20,000,000	20,000,000	0
職員預り金	159,130	208,368	△ 49,238
仮受金	0	308,011	△ 308,011
			0
固定負債	62,989,971	81,046,177	△ 18,056,206
長期運営資金借入金	10,000,000	30,000,000	△ 20,000,000
退職給付引当金	52,989,971	51,046,177	1,943,794
負債の部合計	95,432,935	109,246,181	△ 13,813,246
純資産の部			
基本金	170,035,355	170,035,355	0
第1号基本金	170,035,355	170,035,355	0
国庫補助金等特別積立金	206,872,282	214,882,541	△ 8,010,259
その他の積立金	0	0	0
次期繰越活動増減差額	652,104,839	591,845,729	60,259,110
(うち当期活動増減差額)	60,259,110	32,197,850	28,061,260
純資産の部合計	1,029,012,476	976,763,625	52,248,851
負債及び純資産の部合計	1,124,445,411	1,086,009,806	38,435,605

御下賜金授与式



天皇陛下より御下賜金・伝達書を拝受いたしました。



匿名様より、マスクを10,000枚寄附を頂きました。ありがとうございました。

感謝録・ありがとうございます



山口銀行様より、お花を頂きました。



サニクリーン様より、時計を頂きました。ありがとうございました。

行事中止のお知らせ

令和3年度コスモス祭りは、感染症拡大防止のため中止とさせていただきます。

編集後記

新型コロナウイルス感染症感染防止のため、行事などの主要行事が中止となっております。

利用されている方、そのご家族、各関係者の皆様には昨年同様、弊法人の方針にご理解ご協力を賜り感謝申し上げます。

平成3年（1991年）4月1日の開所から30年経ちました。今号は30周年記念として編集しています。

利用者30名、職員19名でスタートし平成8年4月には利用者60名、職員32名。平成10年、市内宮野地区にグループホーム（利用者4名、世話人1名）の開所と進み、現在は障害者支援施設ひらきの里、グループホームひらき、多機能型事業所ひらきの家、相談支援事業所ぴぽっと、子ども通所サービスあぼろ、山口県発達障害者支援センターまっぷ、と多種のサービス事業を展開しています。

これを機に、過去に起こった様々な出来事を振り返り、今後、さらなる発展に繋がるように努めたいと思います。

最後に寄稿を下さいました方々には、この書面をお借りしてお礼を申し上げます。